

SG550XGおよびSG350XGスイッチでのスタティック番号付けまたは手動ユニットID割り当て

目次

[スタティック番号付けまたは手動ユニットID割り当て](#)

[初期設定](#)

[ユニットID割り当ての変更](#)

目的

スタックのトポロジを設定した後、スタック内の各ユニットには、手動または自動で一意的IDが割り当てられます。このドキュメントの目的は、SG350XGまたはSG550XGシリーズスイッチのスタックユニットIDを手動で設定する方法を示すことです。スタティック番号の完全なデモについては、次のビデオをご覧ください。

自動ID割り当ての詳細については、自動番号付けの記事を[参照してください](#)。

このドキュメントの用語に慣れていない場合は、[Cisco Business:新用語一覧](#)。

該当するデバイス

- SG350XG
- SG550XG

[Software Version]

- v2.1.0.46

[スタティック番号付けまたは手動ユニットID割り当て](#)

スタティック番号付けでは、各デバイスのユニットIDを手動で定義し、初期プライマリ、バックアップ、およびメンバーのユニットを決定できます。

初期設定

このデモンストレーションでは、4台のSG550XGスイッチをチェイントポロジで接続します。チェイントポロジの設定方法の詳細については、「リングおよびチェイントポロジ」を参照してください。

ステップ1：チェイントポロジでデバイスを物理的に接続したら、各スイッチのWeb設定ユーティリティにログインし、[Administration] > [Stack Management]に移動してスタックポートを適切

に設定します。

ステップ2:[リセット後のユニットID(*Unit ID After Reset*)]ドロップダウンリストで、1 ~ 8の整数を選択し、各スイッチにユニットIDを一意に割り当てます。

注：機能スタックのスタックプライマリを指定するには、1のユニットIDをスイッチのいずれかに割り当てする必要があります。

ステップ3:[**Apply and Reboot**]をクリックして、各スイッチの変更を保存します。続行するかどうかを確認するウィンドウが開きます。[OK]をクリックすると、デバイスが再起動します。

注：変更が適用され、各デバイスがリセットされた後、各スイッチのスタックID LEDインジケータを確認することで、ID割り当ての成功を確認できます。4より大きいIDを割り当てると、複数のLEDインジケータが点灯し、その合計がスイッチのユニットIDを示します。

ユニットID割り当ての変更

ステップ1：すべてのスイッチのリポートが完了してスタックになった後、スタックマスターのWeb設定ユーティリティにログインし、[Administration] > [Stack Management]に移動します。

「スタックトポロジビュー」セクションには、現在のスタックトポロジとスタティック番号設定が表示されます。各スイッチを選択し、ユニットIDを編集できます。

ステップ2 (オプション)：変更するスイッチを選択します。[リセット後のユニットID]ドロップダウンリストで、スイッチのユニットIDとして割り当てられる新しい整数を選択します。

注：あるスイッチのユニットIDを変更するには、重複する番号を避けるために、スタック内の別のスイッチのユニットIDを変更する必要があります。

ステップ3 (オプション)：[**Apply and Reboot**]をクリックして、スタティック番号設定に加えた変更を保存します。デバイスのリセット後、更新された番号付けとスタック設定が[Stack Management]ページに表示されます。

結論

スタティック番号付けでは、各スイッチのユニットIDを選択できるため、スタックの設定を制御できます。その結果、スタックのトポロジを簡単に変更でき、どのユニットがスタックのプライマリ、バックアップ、スレーブであるかを指定できます。物理的にスタックをセットアップした後、各ユニットのスタック管理ページにアクセスし、一意のユニットID番号を割り当てることができます。